

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503445		
法人名	株式会社グローバルケアマネジメント		
事業所名	ポテトタウン北の沢		
所在地	札幌市南区川沿1条3丁目5-23		
自己評価作成日	令和6年3月15日	評価結果市町村受理日	令和6年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

藻岩山の麓にある、ポテトタウン北の沢は、冬は雪が降り、四季を楽しめる施設です。3つの理念を念頭におき、利用者の残存機能を最大限に引き出し、1日を楽しく充実した生活をおくって頂けるよう、日々介護に取り組んでいます。又、日々の業務で話し合いを十二分に行い、よりよい介護経験の長いスタッフが多いです。利用者様同志、とても楽しく会話されている時間があり、よく楽しく歌を歌い合唱をされています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0170503445-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=koubvou_detail_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=0170503445-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年3月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の藻岩山南側の住宅地にある開設19年目2階建1ユニットの事業所である。緑が多い静かな住宅地に位置し、建物は2世帯住宅を改装した家庭的な造りで家具や調度品も親しみやすい物が置かれている。町内会や地域住民との関係が良好で普段の暮らしの中でお裾分けがあるなどの間柄が築かれ、災害対策においても協力関係が保たれている。日々の生活と支援を結びつけ、入浴の用意やシーツ交換、食事後の食卓の整頓、レクリエーション時の用具配布など、できることを個々に、利用者同士で、職員と一緒に、職員の細かい膳立ての元に残存機能の引き出しや維持に努めている。利用者が自席が分からなくなった時や服は何が良いかなど困っている時には、側にいた利用者が知らせたり教える場面も多い。「いつ帰れるの?」と問うた時には「此処にいるんだよ」と利用者同士が関わり合い、支え合える関係性がある。他者を助けようとする関心の礎となっているのは、職員が日々の中で起こる利用者の沢山のサインに気づき、感じ取り、読み取り、そして適切な対応を行っている賜物であると推察できる。帰宅願望が強く泣いていた方が、みんなのまとめ役になり、生き生きと生活ができるようになった事例がある。折り紙や脳トレ、体操や合唱、コーヒータイトムなども利用者同士、交流を持ち楽しんでいる。現在、運営母体の移行中である。これまで培ってきた良質な専門性ある介護支援サービスは理念と一体となり、利用者の暮らしを丁寧に支えている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様や家族の思いを尊重し、その人らしい暮らしを支えていけるよう理念を設け、職員採用時には理念の説明を行っている。又、日頃から理念の意識付けにリビング休憩室に掲示している。	地域密着型サービスの意義や役割を盛り込んだ3項目の理念を標榜し、具体的な指針である介護の10ヶ条と共に事業所内要所へ掲示している。理念と10ヶ条は利用者の支援を通し、職員間で育み合い事業所全体のものとなっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入会しており、子供110番や定期的な訪問される役員もあり、また、近所の住民からは野菜の差し入れ等があります。	町内会長からの話や回覧板で地域情報を得ている。近隣住民から畑で採れた野菜や花のお裾分け、運営推進会議メンバーやボランティア活動で来所していた方からも土産などの心遣いがあり、普段の暮らしの中で、温かい交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理職や職員は、認知症サポーターの研修に参加する等、削除→認知症の状態に参加する等、認知症の状態に対する悩み事などを受け入れる体制がある。電話での相談はわかりやすく支援方法を伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の現状や行事、災害対策など、研修内容を報告し、そこで得られた意見を含め、議事録は家族に郵送している。	町内会長、家族代表(交代制)、地域包括支援センター、知見者がメンバーとなり定期に開催している。毎回、報告事項以外に中心課題を設け協議しており、一例では「運営推進会議とは」を設定し、意義や役割について共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業主や管理者が連絡を行っており、相談や情報交換を行い、関係を築く努力をしている。	管理者が中心となり介護保険制度上に関する不明点の質問や、指導を得て、適正な運営の維持に向け協働関係を築いている。区分変更時に出向いたり、担当者からも電話で利用者の状態像の確認があるなど、適宜、情報連携し実態に即した適切なサービス運用に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加しており、全職員が身体拘束に対する知識と認識を持っている。日々、身体拘束をしないケアを実践しており、身体拘束適正化委員会を設置している。	身体拘束適正化委員会、高齢者虐待防止委員会を運営推進会議終了後に同メンバーにて開催し、当該事項に関する職員へのヒヤリングや取り組み状況、これらに係る年2回の内部研修について報告している。研修は身体拘束せずに事故を防ぐ方法、パーソン・センタード・ケア等を学習している。身体拘束適正化に係る指針の見直しを図る事としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加しており、その中で学び得たことを報告し情報を共有し、虐待のないケアに努めている。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修を受けています。高齢化が進む中での、必要となるケースを踏まえて受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より事業所の概要を説明し、入居の際も丁寧に説明し、理解、納得された上でサインを頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的なお手紙や、議事録等送付する際に返信用の封筒と便箋を同封する等、家族の意見や役員の意見等、運営に反映されている。	今年から家族へ支援経過表送付を中止しているが、家族との電話や接する機会、介護計画作成時等で意見を得ており、「元気になる、ご飯も食べれるようになって良かった」のメッセージもある。利用者からは労いの言葉や「コーヒーを外で飲みたい」が出ており、今後、反映する予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望等、いつでも反映できるように代表者を支え職員の意見や提案を開く機会を設け反映させている。	新管理者が着任し、また、運営母体の移行中であるが、職員意見の反映や、困り事へ知恵を出し合い助け合う環境は従前と変わらず、一緒に話し合いながら調整する態勢を維持している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から事業主は、職員の意見等、わかる環境をつくられている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修や外部研修に参加している。その研修結果を職員会議や内部研修で、スキルアップに活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外での、研修や同業者との懇親会や交流会に参加し活動を通じてサービスの向上に努めている。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の利用者、家族との面談の中で、不安や要望の聞き取りを行い、全職員で情報を共有し、より良いコミュニケーションを目指している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談されるご家族の立場に立ち、入居に至る経緯や家族としての悩みや不安、又、利用にあたっての金銭的な悩みや不安等時間をかけ受容的態度に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談の際に、現状や要望を傾聴し、必要な支援、優先順位などを見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活しているという気持ちで支援している。職員も入居者様から日々学ぶこともあり、共に、支え合い、暮らしを共にする関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度の支援経過や電話連絡、面会時などに日常生活や変化を細かく伝え、情報を共有することや協力を得ながら良い関係が築かれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夜間以外の面会時間に制限を設けず、何時でも馴染みの方が気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。	居室での面会を再開し、家族との和やかな時間をサポートしている。手紙や電話の取り次ぎは希望に応じ、携帯を所持し自由に通話する利用者や手紙や葉書、年賀状が届き喜んでいられる方もいる。家族との通院や外食、買い物、墓参、温泉一泊などスムーズに出発できるようその都度対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状況を見極め、一方的な介入にならないように様々な側面から観察することにより入居者様同志の関係性や関わり方を理解、一人一人が孤立しないような支援に努めている。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には事業所側で入居者様の状態に適した次の生活場所を探し、その後の経過に応じて相談にのる等のフォローをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や想いを日頃から聴き入れ、個々の想いや意向の把握に努めている。	利用者の何気ない言葉からも本人の胸中を推しはかり、暮らしへの願いを把握している。一例では、利用開始当初の帰りたい、不安である等の気持ちの利用者への介護に対する意向を分析し、介護計画につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居する段階で、本人、家族関係機関より情報収集し、その人らしい生活を維持できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の1日の過ごし方や言動など、個々の生活リズムを把握し、現状に合わせた支援が出来るよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議やモニタリング、日常的にカンファレンスを行い、適切な介護計画作成につなげ、変化がみられた時は、都度検討している。	センター方式と課題分析(アセスメント)概要シートを用いてアセスメントしている。最近では、職員から入浴についてのニーズを加えて欲しい等の意見が上がり見直しを行うなど、本人、家族、職員、医師の意見を反映させた現状に即する介護計画を策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援内容に沿って本人の状態を記録している。又、いつもと違う変化、気になること等がみられたときは、職員全体で情報を共有し、ケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関の受診、緊急受診の対応等、家族の要望に応じている。又、買い物や外出同行など、入居者第一で考え支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会をはじめ、民生委員の定期的な訪問、又、防災に関するアドバイスや施設の行事等、ボランティアの方と連携を図り、入居者が生活を楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在月2回の往診と訪問看護を行っている。	利用者全員が協力医療機関の月2回の往診を受け、週1回看護師が訪問し健康管理支援を行っている。歯科や専門他科受診は家族対応としている。家族が同行する際は申し送りメモや患部写真を提供するなどして、適切な医療を受けられるようにしている。	

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の医療機関が24時間対応のため、入居者一人一人が適切な受診や訪問看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は必ず付き添い、医療相談室と定期的に連絡をとり入居者の状態の確認や変化を把握し、退院状態の確認や変化を把握し、退院後の支援体制をご家族と一緒に整え、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の対応については入居時から話し合っており、施設で生活する中でどの段階に来た時でも本人にとって最良の環境が選択できるよう支援するとともに重度化が進む中、意向に変化はないか確認している。	医師の判断に基づき関係者間で話し合い今後の方針を取り決め、看取りに関する指針、終末期医療に関する意思確認書を元に説明し同意を得ている。重度化対応でエアマットを導入した事例がある。次年度、看取り研修を実施する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の中には、救急救命の講習を修了しているものもいる。又、日頃から起こりうる事故を想定し、定期的に話し合っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を実施しており、地震時の対応についても行っている。訓練は、夜間も含めた様々なケースを想定し、入居者全員が参加している。	令和5年6月夜間想定、9月日中想定の方針を策定中である。	当事業所エリアで想定される自然災害発生時での、避難誘導のあり方を改めて話し合う事としている。収容避難場所への移動や生活課題等も含め、協議される事に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係になっても人格の尊重やプライバシーの確保について常に意識している。言葉かけにも失礼のないよう対応している。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉がけをしない事の徹底や利用者の心情に配慮した接遇や対応である。個人記録類は事務コーナーの他者の目に触れぬ場所で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の伝えたいことや思いを日常生活の中で一人一人の能力や性格に合わせたコミュニケーションの取り方を工夫し自己決定の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースや体調、気分等を尊重している。共同生活上ある程度の生活の流れは決められているが、利用者本位のケアの重要性を考え、入居者中心の生活支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、訪問美容で本人の好みを尊重し、カットしている。又、自分で身支度ができない方には、気温や季節に合わせ、選択できるよう支援している。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在クックデリにて食事を提供している。	主食と汁物は職員が調理し、個々の食形態に応じた副食が届いている。季節を感じる食事レクリエーションや誕生日は昼食パーティーの他、夕食でも2次会と称し祝っている。汁粉や蒸しパン、菓子パンなど利用者のおやつ希望に応え提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が1日を通じて確保できるよう、一人一人の口腔状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人一人の口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄感覚を最優先し極力、失敗につながらないよう声かけを行っている。出来る限りトイレで排泄出来るよう支援している。	リハビリパンツへの移行は汚れの感覚の失念となるため、すぐに変更せずに失禁を防ぐ声かけや誘導に努め、パッドの交換時では本人から「ありがとう」「さっぱりした」との声がある。昼夜、トイレでの排泄支援を行っている。記録はタブレット入力へ移行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の排便状況を細かく把握している。薬だけに頼らず主治医に相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週に6日間実施している。入浴中はボディケアを行いながら会話ができる雰囲気作りにも配慮している。	木曜日以外の午前に対応し、入浴中は利用者からプライベートな話題が多く出され満足できる特別な時間となっている。浴後に保湿剤や軟膏を塗布し肌と気持ちが潤うケアに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣、睡眠状況、運動量、精神状況などに応じて適度な休息を取り、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人一人の生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		

ポテトタウン北の沢

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為控えていました。春先雪がとけたら考えています。最近では親族と外出される方もいます。	事業所周辺は勾配のある道のため、散歩よりも庭にベンチを置き日光浴を主としている。8月の外出レクでは大学のラベンダー祭りへ何名かに分けて全員が出かけ、花畑を見て満喫し喜ばれ、家族との外出も多く楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により応じています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人一人が、居心地よく過ごされるよう工夫しています。	共用空間は明るく家庭的な雰囲気があり、季節感ある装飾や写真の掲示、大きな窓から外の景色が目に入る。テレビの前にはソファを置きゆったりと鑑賞できる。2階廊下も居心地よい空間となっており、ウォーターサーバーの設置により利用者がマイカップで自由に飲むことができ、壁面に歌詞を掲示し合唱する場ともなっている。洗面所やトイレ、浴室も清掃が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同志が好きな場所で会話を楽しんだり、歌を歌ったり、一人で過ごす空間があったり、好きな場所を選択できるよう支援をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや馴染みの物などを、持参されている。本人が置き場所を決定し思い出の物を飾るなど、居心地良く過ごせるよう工夫をしています。	その人らしい居室作りを支援しており、馴染みの家具や調度品、大切な品々、大きな人形ケースやぬいぐるみなどを持ち込んでいる。自宅のような雰囲気が感じられるよう、居心地のよい環境をサポートしている。現在、温湿度計の設置に向けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の残存能力や空間認識能力、動作、行動の特徴、生活リズム等、本人の能力に合わせ安全かつ個々の自立した生活支援を与えられるよう日々工夫し支援に努めています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ポテタウン北の沢

作成日：令和 6年 4月 8日

市町村受理日：令和 6年 4月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	令和5年6月夜間想定、9月日中想定 of 火災避難訓練を実施している。地域協力者、災害備蓄品を確保している。自然災害発生時における業務継続計画を策定中である。	当事業所エリアで想定される自然災害発生時での、避難場所への移動や生活課題などもふくめ、協議されることに期待したい。	業務継続計画(BCP)自然災害編の資料作成が完了し全職員が目をとおしています。自然災害発生時訓練を実施し全利用者職員の安全確保に取り組んでいきたい。	
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。